

ビジネス日本語教育とは

新旧「ビジネス日本語教育」

	旧	新
背景	高度経済成長 バブル経済	グローバル化 少子高齢化
目的	十全に仕事を行える人 が日本語でも仕事ができる ようにする	十全に仕事ができるように する
対象	ホワイトカラーのビジネ スパーソン	就労者全般 失業者、学生
内容	ビジネス場面の日本語 表現	仕事をするための知識や 技能全般

「語学」から「人材育成」へ

ビジネス日本語教育 類型

- ▶ 日本語中心型
 - ビジネスに関連する語彙
 - 待遇表現
 - 定型表現
- ▶ スキル中心型
 - メール
 - プレゼンテーション

脱文脈的

- ▶ 活動中心型
- ▶ ケース中心型

スキル中心のビジネス日本語教育

・何らかの会社で必要な業務内容

- ▶ 電話を受ける
- ▶ 話を聞く
- ▶ 謝罪する
- ▶ 報告する
- ▶ 企画書・提案書を作る
- ▶ プレゼンテーションする
- ▶ アポをとる
- ▶ 訪問して説明する

・聞き取り
・敬語
・メモ
・要約
・
・
・

学習活動としてここを軸に考える

活動中心のビジネス日本語教育

・高齢者向け新商品開発

- ▶ 調査計画を立てる
 - ディスカッション
 - 企画立案
- ▶ 調査をする
 - アポとり
 - 訪問
 - お礼
- ▶ 結果をまとめる
- ▶ プレゼンする

学習活動としてここを軸に考える

- ・ 言語知識
- ・ 技能
- ・ ビジネススキル

・
・
・

ケース中心のビジネス日本語教育

・職場における異文化摩擦事例
・ビジネスにおけるトラブル事例

- ▶ 課題を発見する
 - ケースの読み取り
 - 状況分析
- ▶ 解決方法を模索する
 - ディスカッション
 - 批判的思考
 - 意見調整
 - 計画立案

学習活動としてここを軸に考える

- ・ 言語知識
- ・ 技能
- ・ ビジネススキル

・
・
・

	+	-
スキル	仕事直結・具体的スキル 短時間で可 目的・目標明確 「できた感」	当たりハズレ 「正解」提示 文脈化
活動	包括的な能力育成 多様性対応	時間がかかる 目的・目標不明確 学習者間格差
ケース	具体的実践的 問題発見解決能力 目的・目標明確	適切なケース